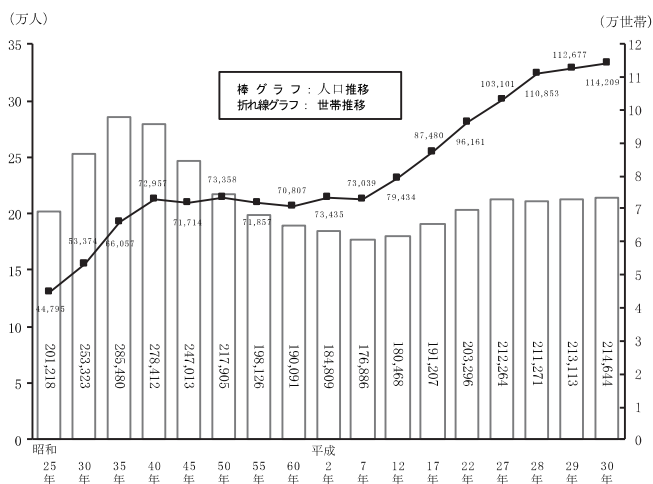


荒川区の人口

人口・世帯数の推移

荒川区の人口は、昭和18年に35万人強とピークを迎え、戦時中に一時減少したものの、戦後は再び増加に転じ、昭和35年の国勢調査では28万5,000人まで達しました。



(昭和25年から平成27年は国勢調査報告による、平成28年から平成30年は住民基本台帳による)

その後、再び減少し始めましたが、昭和50年代後半からは減少傾向が鈍化し、平成10年以降は再開発などにより増加に転じています。世帯数は、単身世帯の増加に伴い増加が続いています。住民基本台帳法等の改正（平成24年7月9日施行）もあり、外国人住民を含めた平成30年5月1日現在の総人口は21万5,000人を超え、総世帯数は11万5,000世帯を超えています。

少子・高齢社会への進行

荒川区の人口ピラミッド（下図）を比較すると、この20年間で60歳代以上は増加し、ピラミッドを支える台の部分の20歳代以下の人口が少ないことがわかります。

人口総数に占める割合も、65歳以上の人口23.4%（20年前18.4%）、15歳未満の人口11.5%（20年前11.6%）となっており、年少人口の変化は少ないものの老年人口が増加しており、少子高齢化が進行していることを示しています。

年齢別人口構成

(住民基本台帳による)

